make a mistake in choosing

Kunitani Takashi Exhibition　国谷 隆志 展

Gallery PARC GRAND MARBLE

http://www.galleryparc.com

【statement】

空間と私の距離

人間と空間は、深く複雑に絡み合った関係である。

空間というものの存在を考える上で、身体を抜きにすることは難しいだろう。それは、私たち人間の身体が常に空間の中に置かれているのと同時に空間を自らのものとすることによって環境を捉えているためだ。
作品が身体の感覚に働き掛けるとき私たちは思考によってそれを把握し、統合する。作品は単なる物質として捉えられるのみではなく、場として身体の一部となる。それは論理や認識のレヴェルではなく、内面的な領域へと思考を拡大していくことである。

私は、私の作品が観客の意識の中で新たな意味や世界観を創りだす装置のような機能をはたすことができればよいと考えている。観客が作品によって示される空間に立ったとき、身体を通じて観客自身の意識の中に起こる出来事は主体的であるために客観性に欠け、あまりに不確かなものかもしれない。しかし、このような場の感覚によって、「身体が、今、ここにある」ということを強く自覚する事ができると私は考えている。

私は、人間の空間への関わりにおいて、自分を取り巻く世界、物事についてのあり方を問うこと、さらに人はそれらとどのように向き合うのか、といったことに関心がある。人が占めている位置、身体、空間、時間、物の配置による人の視点や移動。これらは身体を起点とした観客自身の位置であり、場の感覚によって示されるものは、自らの存在を示すことに繋がる。作品の意味は観客の体験によって成立し、観客の参加そのものによって完成する。

あなたの存在と私の存在によって作品を完成へと導くことを、あなたの存在と私の存在の証明とする。

【作家略歴】

国谷 隆志 / KUNITANI, Takashi　http://takashikunitani.com/

1974　京都府生まれ
1997　成安造形大学 立体造形クラス卒業

おもな個展

2012　two passages（京都芸術センター/ニュイ・ブランシュKYOTO 2012）
2011　MARS（Gallery PARC/京都）
2008　Untitled Series（Contemporary And Spirits CAS/大阪）
2007　The Vertical Horizon（大阪府立現代美術センター/大阪）
2005　国谷隆志展（Contemporary And Spirits CAS/大阪）

おもなグループ展

2012　アブストラと12人の芸術家：プレイベント（大同ビル/京都）
2011　モトコーART train（神戸元町高架下通商店街/神戸）
2010　NEW WORKS「接続熱源」（ギャラリーほそかわ/大阪）
2009　MASSIVE PROGRESSION（ギャラリーアーティスロング/京都）
2008　LOCUS（神戸アートビレッジセンター/神戸）
　　Art Court Frontier 2008 #6（アートコートギャラリー/大阪）

コレクション：竹中工務店東京本店

【今後の予定】

「アブストラと12人の芸術家　-HER NAME IS ABSTRA-」

［参加作家］
荒川 医、金氏徹平、菅かおる、国谷隆志、小泉明郎、立花博司、田中和人、田中秀和、中屋敷智生、南川史門、三宅砂織、八木良太

会　期：2012年11月11日（日）～12月16日（日）　13:00～19:00
会　場：大同倉庫（京都市中京区壬生神明町1-61）＊JRおよび地下鉄二条駅より徒歩10分
料　金：パスポート制チケット　当日￥500・前売り￥450（ギャラリー・パルクでも取り扱い中）
H　P：http://abstra12.tumblr.com/

【展示作品】

A.
The sole of workboots
2008～2012
靴底、ブロンズ
8inch
2008年から2012年まで履いたブーツのソールと、ソールのブロンズ彫刻を併置したもの。

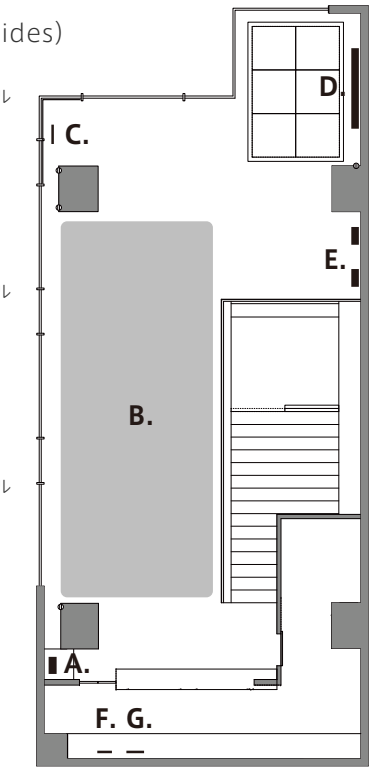
B.
Untitled（Recipe #1）
2012
ガラス、アルゴン、水銀
サイズ可変
私は鑑賞者の目の前に提示された曲がりくねった光やわけが分からないぐにゃぐにゃしたモノに対して鑑賞者がただ、そこにあるモノにどのように対峙するのか関心がある。

C.
Drawing
2012
紙、顔料インク
137×48.7cm
Untitled（Recipe #1）制作過程の痕跡。熱したガラス管による焦げ跡も見られる。

D.
Mirror Site（14497）
2012
ステンレススティール、パネル
133×109×7.5cm
世界を構造として捉えることは可能だろうか。ステンレススティールの鏡面に刻み込んだグリッドは、そこに映し出された像と空間を区画し、反復と構造が世界を覆う。これは世界を「対象」として対峙することができる一つの方法なのではないだろうかと考えている。

E.
Mirror Site（Both Sides）
2012
ステンレススティール、パネル
39×30.7×5cm（2点組）

F.
Mirror Site（224）
2012
ステンレススティール、パネル
14×16×5cm

G.
Mirror Site（792）
2012
ステンレススティール、パネル
24×33×5cm

H.　＊入り口階段部分作品
Mirror Site（4000）
2012
ステンレススティール、パネル
100×40×5cm